

世界史

(問題)

2011年度

<2011 H23050111>

注意事項

1. 問題冊子および記述解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験がはじまってから、解答用紙の所定欄に正確に記入すること。記述解答用紙の所定欄(2か所)には受験番号と氏名を、マーク解答用紙の所定欄には氏名のみを記入すること。受験番号の記入にあたっては、次の数字見本に従い、正確にていねいに記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5. マーク解答用紙のマーク欄には、はっきり記入すること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないようよく消すこと。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

6. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I

内陸アジアの人々は、自らの歴史を文字に書き残すことが比較的少なかった。そのため、外部からこの地域を訪れた人々が残した旅行記や報告が、貴重な史料となっている。こうした記録に関する①～④の文章を読み、下記A、Bに答えよ。

- ① 中国に仏教が普及すると、経典の収集や教義の研究のため、内陸アジア経由でインドに赴く中国僧があらわれた。玄奘は、高昌(トゥルファン)から **a** 山脈の南麓に沿って阿耨尼国(カラシャフル)、屈支国(クチャ)などを経て西進し、さらに緒時国(タシュケント)、梵衍那国(バーミヤン)などを経てインドに到達した。
- ② モンゴル帝国時代には、ユーラシアの東西を結ぶ内陸交通が活発化し、多くの人が記録を残した。フランスのルイ9世からモンゴルに遣わされたルブルックは、コンスタンティノーブルから黒海を経て、ヴォルガ川付近にあったバトゥの本営を通り、カラコルム近郊で **b** =ハンに謁見した。
- ③ 内陸アジアを中心に広大な版図を築いたティムール朝は、ヨーロッパや中国からも注目された。カスティリヤのエンリケ3世から派遣されたクラヴィホは、黒海からタブリーズを経てカスピ海の南を回り、1404年9月にティムール朝の都 **c** の近郊でティムールに謁見した。
- ④ 16世紀以降、内陸アジアの交易路は衰退に向かったといわれるが、数は少ないながら、当時の交易の実態を伝える記録もある。イギリス人のジェンキンソンは、モスクワを出発してヴォルガ川を下り、イヴァン4世が征服して間もないアストラハンからカスピ海に出て東岸まで航行し、その後、陸路を経て **d** プハラに到達した。

A 問い1～4に対する最も適切な答えを、それぞれイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- 1 ①の玄奘の旅行記に記されていない内容はどれか。
- イ 緒時国(タシュケント)など窣利(ソグド)地方の各都市は、突厥に従属している。
 - ロ 阿耨尼国(カラシャフル)や屈支国(クチャ)ではインド系の文字を用いているが、窣利(ソグド)地方の文字は異なる。
 - ハ 窣利(ソグド)地方の各都市には、仏教寺院もあるが、イスラームがより盛んである。
 - ニ 梵衍那国(バーミヤン)の王城の近郊に巨大な石仏があり、金色にかがやいている。
- 2 ②のルブルックの旅行記に記されていない内容はどれか。
- イ カラコルムには、モスクのほかキリスト教会もある。
 - ロ 中国では、紙幣が用いられている。
 - ハ 前ハンのグユクに近い一派が現ハンに対して謀反を企てたが、失敗した。
 - ニ ルブルックがカラコルム付近にいる間に、モンゴル軍は南宋の都である臨安(杭州)を占領した。
- 3 ③のクラヴィホの旅行記に記されていない内容はどれか。
- イ ティムールは、インダス川を渡ってサイド朝の軍を破り、デリーを占領した。
 - ロ ティムールは、アンカラの戦いでオスマン帝国のスルタンを捕虜にした。
 - ハ 中国から使節が到着して貢納の支払いを要求すると、ティムールは侮辱的な返答を与えた。
 - ニ クラヴィホが帰国する途中、ティムールが死去し、一族の間で後継をめぐる紛争が起こった。
- 4 ④のジェンキンソンの旅行記に記されていない内容はどれか。
- イ ヴォルガ川下流の西方一帯を占めるクリム=ハン国は、ロシアと敵対し、オスマン帝国の支援を受けている。
 - ロ プハラは独立した王国で、ペルシアとは宗教上の理由から敵対している。
 - ハ インド商人は織物類をもたらすが、金・銀・宝石・香料類はポルトガル人に押さえられて外洋の方に流れるため、プハラには持ち込まれない。
 - ニ ジュンガルと清朝との戦争のため、プハラと中国との間の交易は途絶している。

B 下記の問い1～4について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

- 1 空欄 a に当てはまる山脈名は何か。
- 2 空欄 b に当てはまる人名は何か。
- 3 空欄 c に当てはまる都市名は何か。
- 4 10世紀末に下線部 d のブハラで少年時代を過ごし、後に『医学典範』、『治癒の書』などを著した、イスラーム世界を代表する医学・哲学者はだれか。

II

以下の文章を読んで、下記A、Bに答えよ。

もしアヘン戦争が「近代」中国の起点でないとしても、「近代化」が1860年代に加速されたことは事実である。西欧と接触することで、新しい社会階級が、^a伝統的な郷紳を社会の上層から押し退け始め、^a匪賊が熱病のように蔓延し始めたのも、この時期であった。^b貿易と近代的工業が拡大したのも、この時期である。これらの変化の結果、中国の経済と社会は、1860年から1949年までのあいだに、^b根底から変化したのである。この90年間は、少なくとも社会・経済の視点から見ると、一つの明確な歴史的時代となっている。しかし、この90年間の社会・経済的変化を理解するためには、原形となる構造や制度にも言及しなければならない。そこで、1860年を超えて、過去に遡る必要が生じたのであるが、^cいったいどこまで戻ればよいのだろうか。18世紀から始めればよいと言う見方もあるだろう。この時期に清朝は最盛期を迎え、「伝統的」な制度は強固であったし、^c西欧の影響はまだ弱かった。しかし、^c一貫した時代を把握するためには、この時代の起点にまで視野を取めなければならないと、強く感じるようになった。そこで、^d明代、特に16世紀まで^d範囲を広げることにした。16世紀は中国史における一つの時代の出発点であると思われたからである。それは、さまざまな社会的変化が相互に関連しつつ弾みをつけた時期であり、その後200年以上にわたって、社会の様相全体を決定的に変容させた時期である。商品経済と貨幣経済が進展し、海外との貿易が発達し、社会階級間の伝統的な区分が崩壊し、非識字率が低下し、人口が急増した。(ロイド・E・イーストマン[上田信・深尾葉子訳]『中国の社会』[平凡社、1994年] 4～5頁。引用に当たって一部改変。)

A 下記の問い1～4について、最も適切な答えを一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- 1 下線部 a に記された現象を象徴する民国初期(1912～26年)の社会動向に関する説明として誤っているものは、イ～ニのどれか。
 - イ 陳独秀らが、雑誌『新青年』を発行し、儒教道徳を攻撃した。
 - ロ 胡適が白話(口語体)文学を提唱した。
 - ハ 魯迅は、科挙制度廃止に反対して、『狂人日記』、『阿Q正伝』を発表した。
 - ニ 李大釗らがマルクス主義思想を紹介した。
- 2 下線部 b の時期の貿易と工業化に関する説明として誤っているものは、イ～ニのどれか。
 - イ 清末の外国貿易は、茶・生糸の輸出と、アヘン・綿製品の輸入が主であった。
 - ロ 日清戦争以後、紡績・軽工業を中心とする民族資本が勃興し、第一次世界大戦期に急成長を遂げた。
 - ハ 民族資本は、外国資本が経営していた鉄道・鉱山利権の回収も行った。
 - ニ 南京国民政府は、ソ連人顧問の助言を得て、「五カ年計画」に基づく計画経済を推進した。
- 3 下線部 c さらには d の時期には、日本やラテンアメリカ産の銀地金、新大陸産の農産物が大量に流入した。これがきっかけで進行した、^a①～④に記された出来事を年代順に記した正しい組み合わせは、イ～ニのどれか。

① 一条鞭法の施行、② 白蓮教徒の乱、③ 対外貿易港を広州のみに限定、④ 盛世滋生人丁の施行

イ ④→①→③→② ロ ①→④→②→③ ハ ①→②→③→④ ニ ①→④→③→②

4 次の表は、下線部 c さらには d の時代に刊行された代表的な文学作品七点の作者、あるいは作者と推定される人物と成立時期をまとめたものであるが、作品名に対する作者名、成立時期の組み合わせには、誤りが含まれている。作者名と成立時期がいずれも正しい場合を○、一方だけが正しい場合を△、いずれも誤りの場合を×で表記すると、次のイ～ニの○△×の配列のうち、最も適切なのはどれか。

作品名	㉑三国志演義	㉒金瓶梅	㉓西遊記	㉔聊斎志異	㉕水滸伝	㉖儒林外史	㉗紅樓夢
作者名	羅貫中	不明	呉承恩	施耐庵	湯顕祖	蒲松齡	呉敬梓
成立時期	18世紀	18世紀	16世紀	16世紀	18世紀	16世紀	16世紀

- イ ㉑ × ㉒ ○ ㉓ △ ㉔ × ㉕ ○ ㉖ ○ ㉗ ○
 ロ ㉑ △ ㉒ △ ㉓ ○ ㉔ × ㉕ × ㉖ × ㉗ ×
 ハ ㉑ × ㉒ △ ㉓ ○ ㉔ △ ㉕ △ ㉖ × ㉗ ×
 ニ ㉑ △ ㉒ ○ ㉓ × ㉔ △ ㉕ × ㉖ ○ ㉗ ○

B 下記の問い1～2に対して、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

- 下線部 d の時代に海外に輸出された代表的な中国製品の一つに陶磁器がある。その第一の生産地の地名と、これが属する省の名前を、それぞれ漢字で記せ。
- 下線部 d の時代に、ヨーロッパから渡来したカトリック宣教師マテオ＝リッチが作成した世界地図の名前と、彼が口述翻訳したエウクレイデス『幾何学』を漢文にまとめた中国官僚の氏名を、それぞれ漢字で記せ。

III

次の文章を読み、下記 A、B に答えよ。

地中海では、古来、ヒトとモノが行き交い、異なる文化が交流し、さまざまな政治勢力が覇権を競ってきた。前3000年頃には、メソポタミアとエジプト^aに文明が生まれた。その後、前2000年頃、フェニキア人^bが地中海を東から西へと航海して各地に都市国家を建設し、ギリシア人が南に移動して、遅れて前1000年頃、ラテン人などの諸種族がイタリア半島に南下し、それぞれ定住した。ギリシア人は各地に小王国をつくり、ヒッタイトやエジプトの大王国と密接な関係を持ち、オリエン特文明の影響を受けたが、小王国崩壊後の数百年^cを経て、前8世紀頃から各地にポリス^dを形成し、地中海沿岸各地に活発な植民活動をくりひろげた。しかし、ポリス間の抗争^eが激しく、ギリシア人の世界は、ペルシアとの戦争^fの時期を除いては一つにまとまることはできず、アレクサンドロス大王の帝国に従属した。そして、地中海地方の諸民族は、ギリシアと同じような都市国家から発展したローマ帝国によって統一された。しかし、ローマ帝国は、3世紀以降後退期に入り、4世紀末に東西に分裂し、ラテンキリスト教文化圏とビザンツ・ギリシア文化圏とが形成された。その後、西ローマ帝国は、侵入してきたゲルマン人によって滅ぼされた。地中海地域には、しばらくして、イベリア半島・アフリカ北岸・中東にアラブ・イスラーム文化圏^gが成立した。この時期、イスラーム勢力が拡大した西地中海とビザンツ帝国の勢力が強かった東地中海とのあいだでギリシアやシリアなどの商人が活躍していたが、やがて東方貿易ⁱ（レヴァント貿易）と北海・バルト海貿易が盛んになり、「商業の復活」といわれる現象がおこり、地中海商業圏^jと北ヨーロッパ商業圏とのあいだには活発な遠隔地貿易がみられた。この間、十字軍によってヨーロッパの勢力がレヴァントに拡大したが、イスラーム文化やその地に保存されていた古代ギリシア文化がヨーロッパに大きな影響を与え、「12世紀ルネサンス」^kといわれる文化的革新が起こった。その後16世紀には、東では勢力を拡大したオスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼし、西ではレコンキスタ（国土回復運動）を達成したスペインがイタリアをおさえた。オスマン帝国とスペインの対立はレバントの海戦をひき起こし、これに敗北したオスマン帝国の地中海制覇は一時的に後退した。「地理上の発見」によって地中海の地位は低下するものの、香料貿易などは重要な意義をもっており、やがてオランダやイギリスが地中海に進出して、国際貿易を支配するようになった。

A 下記の問い1～6について、最も適切な答えをそれぞれイ～ニから一つ選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

1 下線部bが建設した都市国家ではないのはどれか。

イ シドン □ ティルス ハ カルタゴ ニ シラクサ

2 下線部cの時期については史料が少なく不明なことが多く、「暗黒時代」と呼ばれているが、この時期の他地域の説明として正しくないのはどれか。

イ ガンジス川の流域にはアーリア人が定着していた。

□ 中国は戦国時代にあり、孔子が活躍していた。

ハ ヘブライ王国は、栄華を極めたソロモン王の死後、イスラエル王国とユダ王国に分裂した。

ニ 日本は縄文文化の時代であった。

3 下線部dに関連して、さまざまな国家のあり方を研究し、『アテナイ人の国制』を著した人はだれか。

イ プラトン □ ソクラテス ハ アリストテレス ニ アリストファネス

4 下線部fの契機となった反乱が起こった都市で、タレスなどの哲学者を輩出したのはどこか。

イ ミレトス □ エフェソス ハ サラミス ニ プラタイア

5 下線部gの皇帝の妹と結婚し、ギリシア正教を国教とした大公の国は、黒海とバルト海を結ぶ交易ルートにあった。その首都を流れる川の名前は何か。

イ ドネツ □ ドン ハ ドニエプル ニ ドニエストル

6 下線部iの東方貿易によって、マッサリアという植民市を起源とする都市が繁栄した。この植民市をつくったのはだれか。

イ ケルト人 □ ガリア人 ハ ローマ人 ニ ギリシア人

B 下記の問い1～5について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

1 19世紀末に下線部aでは前14世紀の国際関係を知るうえで重要な史料が発見された。発見された都市の名前を記せ。

2 下線部eが続くなかでデロス同盟とペロポネソス同盟のあいだで戦争が起こったが、この最中にアテネの民衆は好戦的なデマゴゴスに扇動され、民主政治は墮落した。この政治は何と形容されるか。漢字二文字で記せ。

3 7世紀後半から8世紀にかけて下線部hの文化圏を実現させた王朝の都の名前を記せ。

4 下線部jの二つの商業圏のはほぼ中間に位置し、12～13世紀に盛んに定期市が開かれた地方はどこか。地方名を記せ。

5 かつて西ゴート王国の都であったこの都市は、下線部kの時期にはイスラーム文化の西欧への移入の拠点となった。この都市の名前を記せ。

IV

以下の文章①と②を読み、下記A、Bの問いに答えよ。

① イベリア半島に侵入していたイスラーム勢力の最後の拠点を1492年に攻略し、長年の懸案であった国土回復運動を成就すると、スペインはさらにキリスト教の布教とともにイスラーム商人を介せずに重要な交易品を直接に確保しようとして、海路による東洋への進出を模索した。こうしたスペインや、ポルトガル、オランダ等とともに東洋へ進出したヨーロッパ諸国の中で、重要な交易品の一つである茶を主として中国から輸入していたイギリスは、中国への依存を解消しようとして、中国が輸出を禁止していた茶樹自体を移植しようと試み、インドに密輸したと言われているが、19世紀初期にはインドでも野生の茶樹を発見し、茶のプランテーションの建設 発展に成功した。

② 16世紀から17世紀のヨーロッパでは、政治思想の新しい潮流が現れた。国家は主権をもつとする理論、国際法の理論、王権神授説の理論、社会契約説の理論などがその例である。なかでも、17世紀の末にイギリスで出版された **d** は、社会契約説の立場から王権神授説を退けて、政府の権力は国民の信託にもとづくことを主張した書物である。清教徒革命以後のイギリスにおける歴史的経過と、この書物の関係については現代の研究者の間で論争が続いている。

A 問い1～6について、最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

1 下線部 a に関係のないのはどれか。

イ イサベル1世 □ カルロス1世 ハ ナスル朝 ニ アルハンブラ宮殿

2 16～17世紀には、さまざまな知識の蓄積や用具の発達があり、下線部 b の海路の発見などに貢献した。次のうち16～17世紀のものでないのはどれか。

イ ケプラーの法則 □ メルカトル世界図 ハ 天球回転論 ニ 羅針盤の発明

3 文章①のスペインに関連する出来事 a～e を年代順に並べるとすれば、適切なのはどれか。

- Ⓐ フランスとの間にピレネー条約が結ばれた。
- Ⓑ フェリペ2世がスペイン王に即位した。
- Ⓒ レパントの海戦に勝利した。
- Ⓓ 無敵艦隊(アルマダ)がイギリス海軍に敗れた。
- Ⓔ トルデシヤス条約が結ばれた。

イ e→b→a→c→d □ e→b→c→d→a ハ b→e→c→a→d ニ b→e→a→c→d

4 下線部 e に関連する以下の記述の中で誤っているものはどれか。

- イ チャールズ1世の専制に抵抗して、議会は不当逮捕・投獄を禁止する人身保護法を制定した。
- 長老派、クウェーカー、再洗礼派、カルヴァン派などはいずれも非国教徒であった。
- ハ 議会派軍は1645年にネーズビーにおいて王党派軍に勝利した。
- ニ クロムウェルが護国卿に就く以前に制定された、イギリスの対外貿易を保護する航海法は、19世紀の半ばに撤廃された。

5 下線部 e に関連する出来事 a～e を年代順に並べるとすれば、適切なのはどれか。

- Ⓐ 議会は議会の同意のない課税、不法な逮捕・投獄、軍法裁判の乱用等に反対する請願書を国王に提出した。
- Ⓑ チャールズ1世が国教会の制度を強制しようとしたため、スコットランドで反乱が起きた。
- Ⓒ 議회를尊重することを条件として、王政の復活が認められた。
- Ⓓ クロムウェルが護国卿となった。
- Ⓔ チャールズ1世が処刑された。

イ a→b→c→d→e □ b→a→c→d→e ハ a→b→e→d→c ニ b→a→e→d→c

6 文章②に関連する以下の記述の中で誤っているものはどれか。

- イ 「国際法の父」とも呼ばれ、航海自由の原則を唱える書物を1609年に刊行したのはオランダの法学者である。
- 国家主権は社会契約に基礎をもつと主張したイギリスの思想家はフランス亡命中に『市民論』を著わした。
- ハ ルイ14世の宮廷説教師として仕え、絶対王政の正当化を唱えた人物は、ユグノー戦争による混乱に対して、1576年の『国家論』で主権の絶対性を主張した。
- ニ 1748年の『法の本質』には三権分立論が展開されているが、こうした考え方はイギリスの立憲政治を一つのモデルにしていた。

B 問い1～5について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

- 1 スペインのカルロス1世は1519年に神聖ローマ皇帝に即位したが、その皇帝選挙でフランス王と争い、これを契機として両国が対立するようになったとされる。そのフランス王とはだれか。
- 2 下線部cの茶を輸送した帆船として、カティーサーク号が有名であるが、これらの帆船は、通常、何と呼ばれているか。
- 3 下線部eの中で、リルバーンらが率いたレヴェラーズ(平等派あるいは水平派)よりも公平な社会を求め、社会主義的な思想に基づき土地の共有を推進した人々は何と呼ばれているか。
- 4 文章②の空欄dに入るのに適切な書名は何か。
- 5 下線部eにおいてジェームズ2世の王位継承を認めた集団は反対派の人々から何と呼ばれたか。

V

以下の文章を読み、下記A、Bに答えよ。

18世紀末にフランスで革命が起ると、その影響はヨーロッパ全域に及んだ。1792年4月にフランスはオーストリアに宣戦し、ヨーロッパ各国との長期にわたる戦争が始まった。この戦争を引きついでナポレオン＝ボナパルトは、周辺地域をつぎつぎと併合し、服属させていった。しかし結局、戦争はナポレオンの軍事的敗北によって終結した。戦後に戦勝国はヨーロッパの秩序再建のための同盟を結んだ。かつての敗戦国フランスも、1818年の国際会議で大国間の同盟に加わるようになった。こうして大国間の協調によって大きな戦争が回避される一方、ヨーロッパやその周辺地域では、その後も革命と戦争の余波が続いた。ドイツで自由と統一を求める学生組合の運動が起り、地中海沿岸の諸地域で反乱や独立運動があいつぎ、ロシアで貴族の青年将校による反乱が起った。そして1830年7月にパリで革命が起り、これに触発されてベルギーでオランダからの独立運動が始まり、ポーランドでロシアに対する反乱が起った。しかしこの時の革命や騒乱は、いずれも長くは続かず、大国間の大規模な戦争も起らなかった。

ところが19世紀の半ばになると、ふたたびヨーロッパ全体をゆるがす革命的な変動が起った。1848年2月にパリで革命が起り、その影響は都市を中心にヨーロッパ各地に波及した。フランスでは革命の直後に、臨時政府のもとで共和政が宣言され、男性普通平等選挙制が定められた。またウィーンではメッテルニヒが失脚し、ベルリンでは自由主義的な内閣が誕生した。ドイツ連邦でも、統一国家の樹立と憲法制定を目指して、国民議会がマイン河畔のフランクフルトで開催された。しかし、ある時点から革命は勢いを失っていった。フランスでは憲法制定議会選挙の結果、保守的な政府が誕生した。これに反対するパリの民衆が1848年6月に蜂起したが、武力で鎮圧された。その後、新憲法が制定され、国民の直接選挙で大統領が選出された。やがてこの大統領は、任期延長をめぐる議会との対立からクーデタを執行し、その翌年に皇帝になった。ドイツでも1848年の秋以降、ベルリンやウィーンの革命勢力は鎮圧され、翌年にフランクフルトの国民議会も解散させられた。革命が挫折に終わった後のドイツでは、ドイツ連邦が復活し、盟主国オーストリアによって統一が阻まれ続けた。

こうして19世紀半ばの時点でも、ヨーロッパの中心部にはイタリアとドイツという二つの大きな地域が統一されないまま残った。イタリアでは、1848年から翌年にかけて統一運動が起っていたが、その時はオーストリアやフランスの介入で挫折していた。その後ふたたび統一の動きが起り、オーストリアなど外国勢力を駆逐することで、一部の領土を除いて、1861年に統一が実現した。このようなイタリアの動きとほぼ時を同じくして、ドイツでも統一の動きが起った。イタリアと同様にドイツにとっても、オーストリアとフランスが統一の妨げになっていた。オーストリアおよびフランスとの戦争を経て、ドイツの統一も実現した。

A 下記の問い1～7について、最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- 1 下線部 a に関連する記述として、誤っているのはどれか。
 - イ 立法議会のジロンド派は、革命の強化をねらって開戦を主張した。
 - ロ 国王ルイ16世は、オーストリアとの開戦に反対した。
 - ハ 宣戦布告の提案は、立法議会で圧倒的多数で可決された。
 - ニ フランス軍は、開戦から5ヵ月後のヴァルミーの戦いで勝利した。
- 2 下線部 b の国際会議の開催地は、オーストリア継承戦争の講和条約が結ばれた地でもあった。それはどこか。
 - イ アーヘン ロ カールスバート ハ ヴェローナ ニ トロツパウ
- 3 下線部 c の出来事のひとつであるギリシア独立戦争に関する記述として、誤っているのはどれか。
 - イ 1822年にギリシアでオスマン帝国からの独立が宣言された。
 - ロ オスマン帝国は、ギリシアの反乱を鎮圧するためエジプトに出兵を命じた。
 - ハ バイロンなどヨーロッパの民間人が義勇軍に参加した。
 - ニ イギリスはオスマン帝国の解体をおそれ、この問題に介入しなかった。
- 4 下線部 d の後に起った出来事はどれか。
 - イ 国王の戴冠式がランスの大聖堂で行われた。
 - ロ 国王が緊急勅令を発して議会を解散させた。
 - ハ 選挙権の資格条件となる納税額が引き下げられた。
 - ニ 亡命貴族の没収財産に対して補償金が支払われた。
- 5 下線部 g に関連する記述として、誤っているのはどれか。
 - イ フランクフルトには、もともとドイツ連邦の議会がおかれていた。
 - ロ 国民議会の代表は、ドイツ連邦の各邦における選挙で選出された。
 - ハ 国民議会は、憲法のうち国民の基本権について採択できなかった。
 - ニ 採択された憲法では、プロイセン国王を元首とする立憲君主制が採用された。
- 6 下線部 i の選挙の候補者だったロマン派の詩人はだれか。
 - イ ルイ＝ナポレオン ロ ラマルティエヌ ハ カヴェニャック ニ ルドリュ＝ロラン
- 7 下線部 k の時点で、まだオーストリア領だった都市はどこか。
 - イ ヴェネツィア ロ パレルモ ハ ミラノ ニ ナポリ

B 下記の問い1～5について、最も適切な答えを記述解答用紙に記せ。

- 1 下線部 e に関連して、プラハで開かれたスラヴ民族会議の議長を務めたチェコの政治家はだれか。
- 2 下線部 f の臨時政府に社会主義者として加わり、1848年6月の蜂起の後にイギリスへ亡命したのはだれか。
- 3 下線部 h の出来事のきっかけは、政府がある施設の閉鎖を決定したことだと言われている。その施設の名は何か。
- 4 下線部 j の結果、退位を余儀なくされたサルデーニャ王国の国王はだれか。
- 5 下線部 l に関連して、この戦争の講和条約を締結し、フランス第三共和政の初代大統領となったのはだれか。

VI

以下の文章を読み、下記A、Bに答えよ。

20世紀前半の大規模な戦争について、日本では「十五年戦争」という言い方もあるが、ドイツのある研究者は第一次世界大戦の勃発から第二次世界大戦の終了までを通して「第2次三十年戦争」と表現している。この表現は、二つの世界大戦の間には繋がりがあるとい見方に立つものであるが、実際、とくにヨーロッパに関してこの見方はかなりの程度まで当てはまるように思われる。第一次世界大戦はかつてない膨大な犠牲者を出したが、戦争の終わり方はかなり中途半端なものであった。同盟国側の中心であったドイツは確かに敗れたが、停戦時にはまだ国内に戦勝国の軍隊はほとんど入ってきていなかったため、戦争そのものに敗れたというよりも、国内の革命と裏切りのために敗れたのだというデマゴギーが広く信じられるようになり、そしてそれは大戦後のドイツ共和国にとって大きな重荷となった。戦勝国も深く傷つき、大戦前に較べると社会的にも政治的にも不安定な状態となった。ロシアにボリシェヴィキ政権が成立したことが、不安定な状態をいっそう強めた。それぞれの国にボリシェヴィキと呼応する勢力が出現する一方で、それと対決する極右的な勢力も伸張したのである。ロシア帝国とオーストリア帝国が崩壊して北東欧からバルカン半島にかけて新たに独立した諸国も、民族自決の原則を掲げながらもそれぞれに少数民族や国境問題を抱えて、なかなか安定しなかった。世界恐慌がヨーロッパの諸国にも大きな打撃を与えると、ソ連がスターリンのもとで恐慌の被害を受けずに急速に国力を増大させるように見えた一方で、ドイツでは、第一次世界大戦の結果をくつがえすことを目指す独裁政権が成立した。ヒトラー政権は、ヴェルサイユ条約を踏みにじりながらもある時期までは民族自決の原則の枠内にとどまるように見え、この時期にはイギリスもフランスもドイツの領土拡大を許容した。しかし、ヒトラーはその成果だけで満足せずに、いわば第一次世界大戦で実現できなかった目標をさらにエスカレートさせた形で実現するために第二次世界大戦を開始することになったのである。

A 下線部1～6に対応する下記の問いについて、最も適切な答えをイ～ニから一つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

- この戦争の起点として考えられているのは、どの出来事か。
イ 盧溝橋事件 □ 柳条湖事件 ハ 上海事変 ニ 西安事件
- とくに西部戦線では戦線が膠着して多大な犠牲者を出したが、戦線が膠着する最初のきっかけとなった戦いは、どれか。
イ マルヌの戦い □ ヴェルダン攻防戦 ハ ソンムの戦い ニ イープルの戦い
- その中でも最も早期に政権を握ったイタリアのムッソリーニは、いわゆる「未回収のイタリア」のうちまだイタリア領になっていなかった地域を併合して国民からの支持を高めた。その地域はどこか。
イ トリエステ □ 南チロル ハ ヴァチカン ニ フィウメ
- 恐慌がもたらした社会不安の中でアメリカ合衆国に成立した民主党政権は、労働者の権利を認めて社会不安を緩和する政策をとった。そのような内容を含んで制定されたが、後に最高裁判所によって憲法違反と判断された法律は、どれか。
イ 農業調整法 □ 全国産業復興法 ハ ワグナー法 ニ 公民権法
- この人物と最も関係が薄いのは、どれか。
イ 第1次五カ年計画 □ ソフホーズ ハ 一国社会主義論 ニ 世界革命論
- イギリスやフランスが決定的な不信感を抱き、いわゆる宥和政策を放棄する直接的なきっかけとなったヒトラーの行動は、どれか。
イ ベーメン(ボヘミア)とメーレン(モラヴィア)の併合
□ ラインラントへの進駐
ハ ズデーテンの併合
ニ スペイン内戦への介入

- B 下線部 a～e に対応する問い 1～5 について最も適切な答えを、記述解答用紙に記せ。
- 1 下線部 a の第 2 次三十年戦争ではなく、17 世紀の三十年戦争が始まったときのフランス王はだれか。
 - 2 下線部 b の革命に際して、ドイツでもロシアのソヴィエトと同様の労働者や兵士の評議会が組織されて、革命の初期には大きな役割を果たした。この評議会をドイツ語で何と呼んだか、カタカナで記せ。
 - 3 下線部 c の共和国は、憲法を制定した議会が開かれた都市にちなんだ通称で呼ばれる。その都市名を記せ。
 - 4 下線部 d の中のある国と戦争を起こしたことが、国際連盟からソ連が除名される原因となった。その国はどこか。
 - 5 下線部 e の戦争の末期に、連合国軍がノルマンディー上陸に成功して以来、ドイツの敗色が濃厚となった。連合国軍最高司令官としてこの上陸作戦を指揮したアメリカの将軍はだれか。

[以 下 余 白]